

### III 放流と追跡調査

#### 1 種苗放流

今年度は沖縄県栽培漁業センターで種苗生産、中間育成した稚ガニを4回に亘って放流した。第1回は5月16日にC<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>のものを4,600尾、第2回は6月14日にC<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>のものを23,300尾、第3回は7月14日にC<sub>4</sub>~C<sub>6</sub>のものを12,300尾、第4回は8月1日にC<sub>3</sub>~C<sub>4</sub>のものを56,900尾放流した(表4)。

放流場所は4回とも海中道路北側の干潟であった(図2)。

各回の放流は、放流地点の干潮時刻に合わせて栽培漁業センターから陸上輸送した稚ガニを、予め設定しておいた放流中心点から20~30m以内になるべく均一になるようにしてまいた。

#### 2 追跡調査

##### (1) 方法

追跡調査は夜間潜水観察と採集により行なった。潜水観察は放流中心を通り沖合方向へのびる調査ラインとそれと放流中心で直交する調査ラインに沿って行なった。第1回は放流当夜と放流4日後の2回、第2回は放流2日前・当夜・2日後・8日後の4回、第3回は放流6日前と当夜の2回、第4回は放流3日後の1回で計9回実施した。

表4 今年度の放流実績

放流日	放流数	放流サイズ
5. 16	4,600	C <sub>3</sub> ~C <sub>5</sub>
6. 14	23,300	C <sub>3</sub> ~C <sub>5</sub>
7. 14	12,300	C <sub>4</sub> ~C <sub>6</sub>
8. 1	56,900	C <sub>3</sub> ~C <sub>4</sub>



図2 放流場所

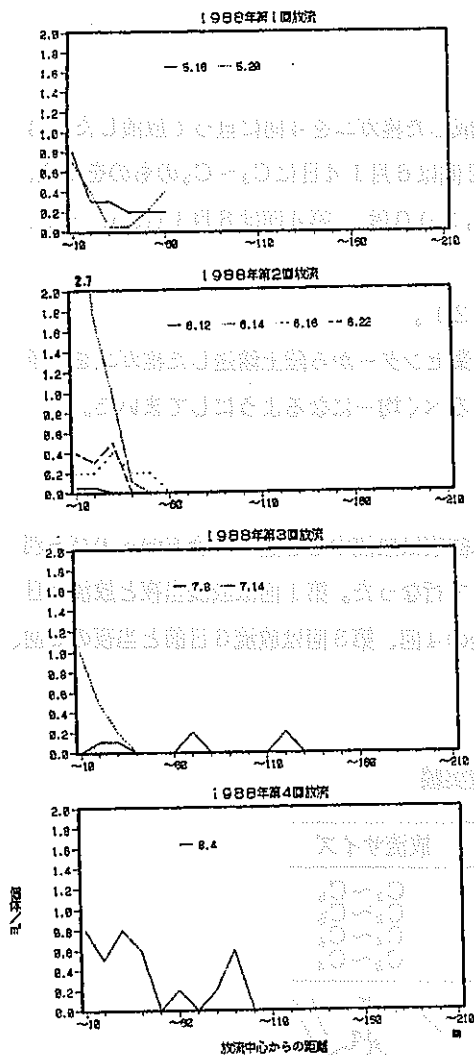


図3 放流後の稚ガニの生息密度

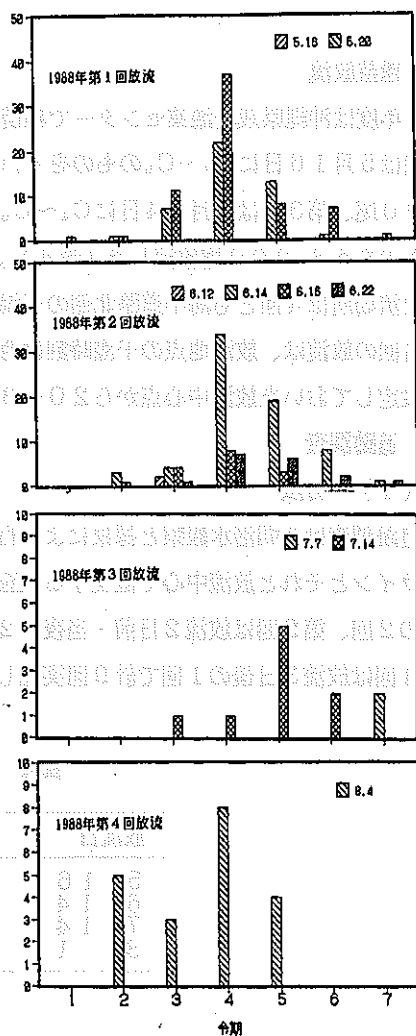


図4 追跡調査で採集した稚ガニのサイズ

## (2) 結果

第1回放流では放流数が4,600と少なかったので放流当夜(5月16日)と4日後(5月20日)とも放流中心10m以内で0.8(個体/m<sup>3</sup>)とやや高くなっている程度であった。出現した稚ガニはC<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>が主体で放流したものと同サイズであり、これらは放流群であると考えられる。

第2回放流では放流2日前(6月12日)にはタイワンガザミ稚ガニの生息密度が0.1以下であったが、放流当夜(6月14日)には放流中心から30m以内で1以上と高くなった。このときの稚ガニのサイズはC<sub>4</sub>~C<sub>5</sub>主体で放流群である。しかし、2日後(6月16日)には生息密度